

## 第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

漢詩文は日本文化の貴重な財産、かもしれない。漢文のソヨウをいまこそ復活すべき、なのかもしれない。そういう主張にあえて **a** つもりはありませんが、それを言うなら、やはり日本の近代にとって漢文脈とは何であったかをまず見定めることが必要ではないかと思えます。この本が考えようとしたのも、そこです。現代における漢文の意義を説こうとすると、**b**、文化遺産やソヨウの問題になりがちです。それは、<sup>①</sup>いまの私たちに欠けている何かを補ってくれるものとして期待されています。しかしほんとうは、私たちがいま立っている位置そのものにかかわる問題なのではないでしょうか。漢文脈について考えることは、現代日本の言語や文化を補強するというよりは、むしろ<sup>②</sup>相対化することへと通じるのです。それは、<sup>③</sup>私たちが遠ざけてきたもう一つの世界だからです。

この視点は、東アジアにおける漢文脈について広く考えようとするときにも、有効だと思われれます。しばしば漢字文化圏と称されるように、中国・朝鮮・ベトナム・日本は、かつて漢字漢文を共有し、漢語に由来する語彙をそれぞれ豊富に抱えている地域です。同文同種と称したように共通性が強調されやすい地域です。しかし、漢字漢文がこの地域にもたらしたものは、むしろ **c** への意識であったとも言えるのです。そして、その意識が複雑に絡みながら、それぞれの近代を構成し、同時に漢文脈をそれぞれ **d** していったのです。

現在、中国語圏以外で漢字を常用するのは日本だけです。北朝鮮やベトナムでは漢字は基本的に用いられませんし、韓国でも、その使用は限定的です。それぞれの言語における漢語由来の熟語の比率は日本語より高いにもかかわらず、<sup>④</sup>このような言語政策が採られているわけです。こうしたことに目を向けずに、あるいは、それを簡単に否定して、漢字は東アジアの共通文化である、同文同種である、と唱えるわけにはいきません。逆に、漢文脈がどのように **d** されたのかをこそ、まず見なければなりません。

その上で、私たちが遠ざけてきた世界がどのようなものであったのか、もう一度知ることは大事です。現代に役立てようとか知識を増やそうとかでなく、もう一つの日本語の世界として漢文脈を知ること。そうして得た視角によって、<sup>⑤</sup>現代日本語の世界をいわば裏側から照射してみること。それは、漢語のゴヨウをあげつらうためにカンセキの知識を振り回す——これも漢文脈における知的競争心に由来するのでしょうか——よりも、もう少し深く現代日本語について考えることになるでしょう。漢文脈でこそ表現しうるようなことがあることに気づくことで、現代日本語の世界を相対化し、その限界と特質を知ることができます。ちようど、漱石が「明暗」執筆のかたわら漢詩を作ったことに似ています。

そして、漢文脈は文体にとどまらない思考や感覚の型ですから、照射しうる対象は言語に限りません。私たちの日常の中で、ほとんど自明のものとして意識されずにいる事象が、漢文脈という世界を知ることによって浮かび上がってくることもあります。

たとえば、趣味。市販の<sup>(エ)</sup>リレキ書用紙にはなぜか「趣味」の欄があり、その定番の一つに、読書と音楽鑑賞という組み合わせがあるように見受けられますが、これは漢文脈で言えば、<sup>(注1)</sup>隠者が老荘の書を読み古琴を奏でて生活を楽しんだのと、対応します。「琴棋書画」と言うときの「書」は一般に書道の意味で使われていますが、読書もまた、<sup>(注2)</sup>隠逸生活には重要です。絃のない琴を奏で、のんびりと本を読むことを楽しんだとされる陶淵明の姿は、後世の文人たちの慕うところでした。趣味という空間自体が、公に対する私であることを考えれば、この定番は、漢文脈的にはたいへん似つかわしいものです。漢詩文ではなくペーパーバックを読み、中国音楽ではなくクラシックを聴くのであっても、<sup>(注3)</sup>やはり漢文脈的と言い得ます。構造の問題だからです。

あるいは、趣味と教養。その違いを説明しようとする、なかなか難しいところがあるのですが、しかし二つが異なっていることは何となく了解されています。趣味の読書と教養の読書、趣味の音楽と教養の音楽。説明は難しいかもしれませんが、雰囲気は明らかに異なっています。本書で採用した枠組みを当てはめれば、前者が文人的、後者が士人的、となります。前者は、自分だけの世界への<sup>(オ)</sup>シコウがあり、後者は、社会的存在としての自分をどこかで意識しています。現代の感覚では、これらの事象はおそらくばらばらのものとして理解されているはずですが、漢文脈という枠組みから照らせば、それは全体的な配置にもとづいているというわけなのです。

<sup>(7)</sup> こうした見方は、ばらばらで繋がりを欠きがちな私たちの日常に、全体的な文脈を賦与<sup>ふよ</sup>する働きをもつかもしれません。近代の始まりでは首かせのように感じられた漢文脈のくびきを解き放った現代では、それがかえって世界を把握するよすがとなる可能性もあります。それは、漢詩を百首憶えるとか、論語の素読をするとか、そういう方法によって実現しようとしていることは別のことであるように思います。むしろ、漢詩文を現代日本語で読み書きされている世界とは異なる秩序をもつもう一つの世界として受けとめることで、それは実現されます。

もちろん、二つの世界を行き来するのは楽ではありません。<sup>(注4)</sup>そもそも反<sup>(注5)</sup>漢文脈とし立てられたことばの世界に私たちはいるのですから、荷風の「断腸亭日乗」を通読するのでさえ、見慣れない漢語に辟易<sup>ひやくいつ</sup>してしまうことがあっても不思議ではありません。けれどもそこには、もう一つのことばの世界への入り口が確実にあります。

先人たちは漢文脈と格闘し、ある者はそこに生き、ある者はそこに風穴を開け、ある者はそこから外へ出て行きました。それによって、今の私たちのことが成り立っているとすれば、私たちのことが何であるかを知るためにも、今度は逆の方向から、漢文脈の世界へと足を踏み入れる時機に至ったとは言えないでしょうか。

(出典 齋藤希史『漢文脈と近代日本』)

\* 都合により、一部を省略した。

- (注1) 老荘―老子と莊子。「無為自然」を説いた。
- (注2) ペーパーバック―紙表紙を用いた低価格の軽装本。ソフトカバー。
- (注3) 素読―漢文で書かれた書物を音読すること。意味・内容は考えない。
- (注4) 断腸亭日乗―永井荷風の日記。
- (注5) 辟易―へきえき。どうにもならなくて困ること。うんざりすること。

問1 傍線部(ア)～(オ)を漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア)  ・(イ)  ・(ウ)  ・(エ)  ・(オ)  。

(ア) ソヨウ

- 1 最善のソチを考える。
- 2 友人とソエンになる。
- 3 不確かなヨウソが多い。
- 4 新たなソシキを作る。
- 5 武力闘争をソシする。

(イ) ゴヨウ

- 1 常にソウゴに監視する。
- 2 マツゴの願いを聞く。
- 3 人権をヨウゴする。
- 4 シコウサクゴを重ねる。
- 5 ゼンゴの間隔をとる。

(ウ) カンセキ

- 1 セキベツの情がわく。
- 2 セキネンの恨みを晴らす。
- 3 古いジヨウセキを訪れる。
- 4 状況をブンセキする。
- 5 自分のコセキを調べる。

(エ) リレキ

- 1 約束をリコウする。
- 2 リケンに心を奪われる。
- 3 ベツリを惜しむ。
- 4 ノウリとして働く。
- 5 ヒヨウリを知り尽くす。

(オ) シコウ

- 1 好きな楽曲のカシを憶える。
- 2 これはシジョウ命題だ。
- 3 あくまでシヨシを貫く。
- 4 専門家の会議にシモンする。
- 5 会のシユシを説明する。

問 2

a

・ b

に入る語句として最も適切なものを、次のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は a

6

・ b

7

。

a

1 賛同する

2 追従する

3 耳を傾ける

4 異を唱える

5 心を惑わす

b

1 まれには

2 必然的に

3 思いのほか

4 当然ながら

5 往々にして

問 3

傍線部①「いまの私たちに欠けている何か」の内容として不適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は

8

。

1 故事成語の知識

2 「論語」の教え

3 唐詩の理解

4 日本文化の特質

5 漢文的な表現

問 4

傍線部②「相対化する」の本文での意味として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は

9

。

1 現代日本の言語や文化が他の国々のそれらとは異なるオリジナルなものであると気づくこと。

2 現代日本の言語や文化が他国の言語や文化に比べて進んでいるという優位性を認識すること。

3 現代日本の言語や文化を顧みて、他国のそれらよりも見劣りしないような視点を見つけること。

4 現代日本の言語や文化が他の国々のそれらと比べてあまり変わらないということを確認すること。

5 現代日本の言語や文化の特質について、他国のそれらと比較して考えることで理解を深めること。

問5 傍線部③「私たちが遠ざけてきたもう一つの世界」の説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 日本語や日本文化に根付いている、漢文脈の思考や表現の実像。
- 2 日本人がこれまで苦手としてきた漢詩の理解や漢文の表現技法。
- 3 東アジア諸国の視点から批判的に眺めた日本語や日本文化の実態。
- 4 日本語や日本文化が中国や朝鮮に由来していることへの理解。
- 5 漢詩文が日本の伝統的文化として貴重な財産であるという認識。

問6 ・に入る語句として最も適切なものを、次のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ・ 。

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="text" value="d"/> | <input type="text" value="c"/> |
| 1 簡易化                          | 1 共通性と固有性                      |
| 2 外部化                          | 2 多様性と共通性                      |
| 3 先鋭化                          | 3 固有性と独創性                      |
| 4 高度化                          | 4 固有性と多様性                      |
| 5 内面化                          | 5 多様性と相対性                      |

問7 傍線部④「このような言語政策」の内容として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 漢語に由来する熟語の比率を高めていく。
- 2 漢字や中国文化を排除して自立していく。
- 3 漢字の使用をできるだけ制限していく。
- 4 漢語由来の熟語を使わないようにする。
- 5 中国文化の影響を受けたことを否定する。

問 8 傍線部⑤「現代日本語の世界をいわば裏側から照射してみる」の説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- 1 漢文脈における知的競争心について探求してみることに。
- 2 日常生活における漢文脈の思考や表現を探ってみること。
- 3 ふだん使わないような現代日本語の表現を調べてみることに。
- 4 現代日本語に潜んでいる漢文脈を見つけて排除すること。
- 5 漱石のように日本語における漢文脈表現の限界を知ること。

問 9 傍線部⑥「やはり漢文脈的と言い得ます」の理由として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- 1 中国の文人が行ったように、個人で楽しむ趣味であるから。
- 2 クラシック音楽にも中国音楽の要素が含まれているから。
- 3 本や音楽に親しむのは陶淵明以後中国の伝統になったから。
- 4 日本においても隠逸生活に必要という点で共通だから。
- 5 今日まで中国で尊重されている趣味の定番と見なされるから。

問10 傍線部⑦「こうした見方は、ばらばらで繋がりを欠きがちな私たちの日常に、全体的な文脈を賦与する働きをもつかもしれません」の内容として適

切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- 1 趣味と教養の違いをわきまえるといった見識を持つことが、ともするとばらばらになりがちな日本人の精神生活を筋の通ったものに変容させるのではないか、ということ。
- 2 漢詩を百首憶えるとか、論語の素読をするといった漢文脈の視点は、現代日本語で読み書きされている世界とは別の世界を見せてくれる可能性を秘めているということ。
- 3 「文人的」か「士人的」か、という漢文脈の視点は、ばらばらで繋がりを欠いた現代の日本人にとって新たな秩序をもたらすという点で、論語や漢詩以上の働きがあるということ。
- 4 たとえば趣味と教養の違いなど、さまざまな事象を漢文脈という見方でとらえることによって、日常生活の中に新しい秩序のようなものを見出す可能性があるということ。
- 5 漢文脈の世界を知ることによって今まで意識しなかったさまざまな事象の意味が解明され、ばらばらな日常がすっきりとした秩序だったものになるかもしれないということ。

## 第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

長寿のコツを他の生物から学ぶことはできないでしょうか？ 寿命に関しては、ヒトより長く生きられる生き物はあまりいないため、難しいように思いますが、注目に値する動物が1種います。ハダカデバネズミです。

同じサイズのげっ歯類（ネズミの仲間）、例えばハツカネズミの寿命が2〜3年なのに対して、ハダカデバネズミは30年と10倍ほど長く生きます。すごい多様性の幅ですね。霊長類にたとえると、ヒトとほぼ同サイズのゴリラやチンパンジーの寿命は40〜50年なので、もしハダカデバネズミ並みにヒトが長生きできたとなると、単純計算ではヒトの寿命はその10倍の500年生きることになります。<sup>①</sup>ハダカデバネズミの長生きの理由を真似して、ヒトの寿命を延ばすことはできるのでしょうか？

ハダカデバネズミのどのような特徴が長寿に結びついたのか、考察してみましょう。まず、「進化が生き物を作った」という観点から、どのような選択の結果、長寿になったのか想像していきます。ハツカネズミもハダカデバネズミも、祖先は同じ小型のネズミでした。小型の祖先ネズミは陸上と地下の両方で暮らしていました。地下は巣穴だったのかもしれませんが、<sup>ア</sup>グウゼンの「変化」が起こり、地下で長く生活できるものが出てきました。ヘビなどの天敵から身を守るための「選択」も働いたのかもしれませんが、あるいは、環境の変化で地下のほうが快適になったのかもしれませんが、地下の穴の中でも、また変化と選択が起こり、低酸素でも活動できるもの、栄養が少なくても生きられるもの、そして狭い穴の中でも仲良く協力して暮らせるものが、選択されてきました。このときに、ネズミの繁殖力の強さ、世代交代の短さが進化速度を加速したと思われる。

そして **a** はやがて組織化し、<sup>イ</sup>食料チヨウタツ、子育て、巣穴の設計・防衛にまでおよび、組織力が強い集団が選択されていきます。最終的には、女王のみが出産し、あとは分業・協力して集団を維持する真社会性ができ上がったのです。さらに、低酸素環境での<sup>ウ</sup>タイシヤの低下、分業によるストレスの軽減が、長寿化にプラスに働いたと推察されます。

長寿のヨウインは、それだけではありません。天敵が少なく、食べ物に限られている穴の中のでの生活では、「**b** 死ぬ」という一般的なハツカネズミなどの多産多死のスタイルよりも、少なく産んで長生きさせる「少産長寿」のほうが、集団および個体を維持するコストがずっと低くてすみます。長生きは、**A**、子育てにかかる労力の割合も低下します。

そして野生の生き物は概してそうなのですが、老年個体のパフォーマンス（体力）も死亡率も、若年個体とほとんど変わりません。つまり死ぬ直前まで働き、ピンピンコロリで死んでいきます。そのため人間社会とは異なり、**B** もないのです。非常にエネルギー効率の良い「総活躍」社会を形成しています。

さて、それではハダカデバネズミのどこを真似したらヒトも同じように超長寿になれるのでしょうか？　まず低酸素、低体温、低タイシヤなどの生理的部分は、簡単に真似するのは無理です。これは基礎研究でじっくりメカニズムを解明し、これらの生理現象と似た効果を作り出す薬やサプリメントを開発するしか方法はないでしょう。例えば活性酸素の発生を抑えるような薬です。

②一方、社会的な変革のほうは可能かもしれません。この点について、ハダカデバネズミから学べることは2つあります。一つは子育て、もう一つは働き方です。まず子育てで改革ですが、ハダカデバネズミの女王のように産むことに特化したヒトを作るとまではいかにしても、産むことを選択したカップルに社会全体としてのサポートを手厚くします。例えば3人以上子供を作ると養育費は国が負担する。4人目以降は養育費プラス「手当」を支給するようにして、産みたい方はたくさん産めるような仕組み作りはどうでしょうか。もちろん保育園の増設、保育士の増員もして子育ての直接的な負担も分担します。子育ての実務を今以上にプロに任せることにより、親個人にかかるコストや労力、ストレスを軽減します。この政策は少子化にも歯止めをかけられるかもしれません。

③2つ目の働き方改革ですが、ハダカデバネズミの「生涯現役」になります。現在の退職後の年金を若い世代が負担する日本の仕組みは、いつも世代間の人口バランスが取れているわけではないので、安定した運用は困難です。例えば現在の日本のように少子高齢化の状態では、若い人の負担が増えてしまいます。そこで世代間の負担バランスを取るためには、歳をとってもできる仕事、やりたい仕事を一生続けられる仕組みを作るのはどうでしょうか。一部の企業ですですでに始まっていますが、定年制など、労働者人口が増え続けていた時代に作られた制度は見直し、働ける人、働きたい人は年齢にかかわらず働けるようにするのはいかがでしょうか。うまくいけば、生きがいを作り、健康にもプラスに働き、長生きが楽しくなる社会が築けるかもしれません。

このようにシニアが活躍する制度を提案すると必ずある議論は、若い人の職が減ってしまうかということです。今の日本のように若い世代の人口が減少している状態では、その心配はあまり大きくないのかもしれませんが、逆にこのまま定年制などを続けていくと、（オ）シユウロウ者人口が維持できずに、人手不足により日本の産業をはじめ、研究、技術開発などさまざまな分野の維持が困難になる可能性もあると思います。

④以上は私が考える理想論なので、現実にはうまくいかないことも多々出てくるかもしれません。ただ、ハダカデバネズミの多くの個体は昼寝をしています。みんなが競って仕事量を増やし成果を競う社会から、効率を上げてゆとりある社会に転換することが、社会全体のストレスを減らし、結果的にヒトの健康寿命を延ばすことができるかも、と私は思います。皆さんはどう思われますか？

（出典　小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』）

\* 都合により、一部の文言を省略した。

問1 傍線部(ア)～(オ)を漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 17・(イ) 18・(ウ) 19・(エ) 20・(オ) 21。

(ア) グウゼン

17

- 1 面白いグウワを語る。
- 2 トウグウ御所を造る。
- 3 イチグウを照らす。
- 4 事件にソウグウする。
- 5 グウゾウを信仰する。

(イ) チヨウタツ

18

- 1 条約にチヨウインする。
- 2 改善のチヨウコウが見える。
- 3 期限をチヨウカする。
- 4 自説をシユチヨウする。
- 5 チヨウシユウに語りかける。

(ウ) タイシヤ

19

- 1 情報がシヤダンされる。
- 2 丁重にシヤザイする。
- 3 シヤジツ的に描く。
- 4 ヨウシヤなく請求する。
- 5 左派にケイシヤする。

(エ) ヨウイン

20

- 1 インゼンたる勢力を保つ。
- 2 詩のオウインを確認する。
- 3 定説をインヨウする。
- 4 不思議なインネンがある。
- 5 インシツなやり口に怒る。

(オ) シユウロウ

21

- 1 お金にシユウチャクする。
- 2 北国でリヨシユウを感じる。
- 3 シユウボウを集める。
- 4 仕事でホウシユウを得る。
- 5 彼のキョシユウが気になる。

問 2 傍線部①「ハダカデバネズミの長生きの理由」として不適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 繁殖力が強い。
- 2 多産多死である。
- 3 仲間と協力する。
- 4 組織力が強い。
- 5 地下で生活する。

問 3  ・  に入る語句として最も適切なものを、次のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は   ・  。

- |                                |       |        |         |          |          |
|--------------------------------|-------|--------|---------|----------|----------|
| <input type="text" value="a"/> | 1 協力  | 2 選択   | 3 世代    | 4 変化     | 5 環境     |
| <input type="text" value="b"/> | 1 飢えて | 2 出産時に | 3 食べられて | 4 寿命が尽きて | 5 繁殖しすぎて |

問 4  に入る句を次のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 集団が消費する食料を増やし
- 2 集団内の子どもの数を減らし
- 3 集団内の若年個体の比率を高め
- 4 集団における平均寿命を延ばし
- 5 集団での若年個体の割合を下げ

問5

B

に入る句を次のうちから一つ選べ。解答番号は

26

。

- 1 老年個体にかかるストレス
- 2 老年個体のパフォーマンス
- 3 老年個体を支える集団のコスト
- 4 老年個体を疎外する社会の圧力
- 5 老年個体同士が支え合う必要性

問6

傍線部②「社会的な変革」の内容として不適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は

27

。

- 1 出産や子育てを望まない、選択しないカップルが社会の中で不平等を感じないような税制改革をしたり、経済的支援を受けられる制度を作ったりすること。
- 2 3人以上の子育て家庭への養育費の国家負担を増やし、保育園の増設や保育士の増員をして、子育てのコストとストレスを軽減していくといったこと。
- 3 まず費用や労力の負担を減らし、親を支援することで子育て環境を改善し、その上でシニアが健康で現役として活躍できるような社会を目指していくこと。
- 4 高齢者が「生涯現役」として働き、若い世代に負担をかけないように、歳をとってもできる仕事、やりたい仕事を一生続けられる仕組みを作っていくこと。
- 5 退職後の年金を若い世代が負担する仕組みを変え、やりたい仕事を一生続けられるようにすることによって、世代間の負担バランスをとっていくこと。

問7 傍線部③「働き方改革」についての筆者の考え方として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 28。

- 1 退職後の年金を支える若い人の負担を減らすためにも、世代間の人口バランスをとる必要がある。
- 2 歳をとってもやりたい仕事を続けられる仕組みは大切だが、若い人の職が減るといふ問題が生じる。
- 3 何よりも高齢者の健康維持のために、生きがいを作り、長生きが楽しくなる社会を築く必要がある。
- 4 シニアが活躍する仕組みを作って労働人口を維持し、世代間の負担バランスを取っていくのがよい。
- 5 ハダカデバネズミにならない、全世代が「生涯現役」という意識を持って働けるようにするべきである。

問8 傍線部④「ただ、ハダカデバネズミの多くの個体は昼寝をしています」の説明として適切なものを、次のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- 1 高齢者が健康寿命を保つためには、ハダカデバネズミにおける昼寝のようなゆとりが必要だと考えている。
- 2 ハダカデバネズミが昼寝をしていることを参考に、ゆとりある人間社会への転換が望ましいと考えている。
- 3 みんなが競って仕事量を増やし成果を競うような社会は、結果的に短命にならざるを得ないと考えている。
- 4 現代社会に対する深刻な問題について論じてきたので、少しユーモアを交えて肩の力を抜こうと考えている。
- 5 ストレスを減らすために、ハダカデバネズミの昼寝にあたるような知恵を模索するべきだと考えている。

問9 本文の内容に合致するものを、次のうちから二つ選べ。解答番号は 30 ・ 31 (順不同)。

- 1 世代間の負担バランスを取り、研究開発を推進するためには、若者と高齢者双方の「生涯現役」を貫く意志が大切だ。
- 2 働き方や子育てを改革して生きがいを作り、長生きが楽しくなる社会を築くことは、実現困難な理想論というべきだ。
- 3 ハダカデバネズミの場合、繁殖力の強さ・世代交代の短さが変化と選択を支え、長寿実現につながったと考えられる。
- 4 ハダカデバネズミ並みにヒトが長生きできるとすると500年生きるようになってしまうので、お手本にはできない。
- 5 野生の生き物の老年個体のパフォーマンスや死亡率が若年個体とあまり変わらないことを、人間も見習う必要がある。
- 6 現在の日本で定年制などを続けていくと、人手不足により産業をはじめ、研究、技術開発が困難になる可能性がある。
- 7 長寿の実現には、活性酸素の発生を抑えるなどハダカデバネズミの生理現象と似た効果を持つ薬の開発が切望される。